

平成 19 年度密度操作実験の実施状況と今後の予定

1. 平成 19 年度計画

知床岬地区において、平成 19 年から平成 20 年の越冬期にメス成獣 150 頭の捕獲(今期の航空センサス結果をもって越冬数の半数に修正)を目標とし、12 月と 1 月に 2 回の捕獲作業を行う。

2. 実施状況

① 第 1 回作業

期間：平成 19 年 12 月 9 日-12 日(3 泊 4 日)

参加者：斜里猟友会員 6 名、羅臼猟友会員 2 名、財団職員 9 名(含む食料担当 2 名)、番屋管理 2 名、環境省 1 名：計 20 名

捕獲数：32 頭(メス成獣 23 頭、メス 0 才 2 頭、オス 0 才 6 頭、オス 1 才 1 頭)

概略：9 日朝 07:30 に相泊港出港、08:30 文吉湾(知床岬)入港。その後各射座の確認・整備等。10 日、11 日の 2 日間(6:30-15:30 の約 9 時間行動)で捕獲作業。本部との情報交換の後、接近する低気圧を警戒して捕獲作業を延長せず予定通り 12 日に撤収とするが、最終的な出港時刻は 12 日の波の状況により船頭の判断で決定することとする。12 日は 07:00 より回収作業開始。08:30、回収補助員(環境省 AR)2 名を乗せた人員とシカ運搬船 2 隻が文吉湾入港。波の状況比較的悪く、船頭は早めの出港を提案。回収作業の区切りがついた段階で撤収準備を開始。結果、文吉湾から岬灯台付近の 21 体を回収、岬より東側や崖下転落の 11 体を残置して撤収、10:00 に全ての積み込み作業を終え、文吉湾出港。11:00 相泊港着、シカ運搬船は羅臼港へ移動、回収したシカが処理業者に引き渡すところまで環境省職員が確認し完了。なお、第 1 回目でもあり、処理場への運搬と処理場で処理が開始されるまで環境省職員が確認した。

捕獲方法は当初、草原に出ているシカは遠方からの射撃に反応が鈍いことを想定し、定点から狙撃するものであったが、遠方の林内にいるシカと違い、障害物のない草原で採食しているシカは想像以上に警戒心が強く、最初の射撃で撃たれなかった個体はすべて林内に逃げ込んでしまった。朝に一度狙撃した後は、午後になるまで草原への再出没は見られず、捕獲効率が悪かった。このため、途中から林内のシカを複数の射手で囲んで捕獲する巻き狩りを併用することとした。

② 第 2 回作業

期間：平成 20 年 1 月 23 日(日帰り)

参加者：斜里猟友会員 6 名、羅臼猟友会員 3 名、財団職員 7 名(含む食料担当 1 名)、番屋管理 1 名、環境省 3 名：計 20 名

捕獲数：メス成獣 1 頭

概略：第 2 回は当初 1 月 10 日-15 日で予定、予定通り 10 日朝に集合・出港したが知床岬付近の海況悪く引き返す。その後天候不順が続き、低気圧の合間を見て日帰りによる捕獲を実施する。

23 日 06:00 相泊港を人員輸送船とシカ運搬船 2 隻で出港、07:00 文吉湾着。そのまま文吉湾に近い西側林内に展開。09:00 頃から巻き狩りを開始し、メス 1 頭を捕獲した。この間、沖より流氷が文吉湾に接近、船頭の判断で捕獲作業をここで終了。捕獲個体を回収して撤収。10:45 文吉湾発、ハス氷の流氷原を通過し、12:00 相泊港へ帰着。シカ運搬船は羅臼港へ移動、回収したシカを処理業者に引き渡すところまで環境省職員が確認して完了。

3. 今後の予定

3月 可能なら実施

(4～5月にも実施予定) *4月5月は平成20年度

捕獲目標頭数は、平成19年度の捕獲目標数から3月までに捕獲した数を除いた数)

今年の流氷の勢力は強いいため、3月後半でも文吉湾まで航行できない恐れが強い。そのため、本格的な捕獲は天候も安定する新年度の4月になってからとなる可能性がある。

捕獲体制は、参加者の都合と天候に対応して長期・短期、多人数・少人数チームでの捕獲を複数回実施することを検討する。1回に20頭を捕獲できるならば4-5月に5-6回程度の実施で目標数に達する。また、4月以降の越冬終期に向かい、シカの警戒心そのものに季節的变化はないものの、体力の低下したシカはより台地草原に依存するようになること、0才とオス成獣の自然死亡が進みメス成獣の比率が高まること、林内の積雪が落ち着くことで人が移動しやすくなることなどから、総合的に捕獲に適した状況になるものと予想される。捕獲方法としては、大がかりな巻き狩りを連日続けるより、間隔を開けるほうが捕獲効率が落ちないであろう。勢子役が林内南側に一晚残留して翌朝に備えるなど、状況に応じた柔軟な作戦が効果的と考えられる。

なお、3月以降はヒグマが活動を開始することが予測されることから、捕獲個体の回収を最終日にするとしても、捕獲個体を林内各所に放置するのではなく見通しの良い場所に数体ずつ集め、集積場所に不用意に接近しないなどの配慮が必要と考えられる。

以上